

ボランティアの
ための

漢点字入門

点訳出版ボランティアサークル

大樹会

<http://n-braille.net/taijukai/>

E メール： taijukai@n-braille.net

2006 年 3 月 製作

2022 年 1 月 修正

漢点訳に必要な知識

★ はじめに

「点字には漢字がないんですか？」とよく聞かれます。ラジオを聞いていて、音声だけで内容を理解できるように、かなだけでも日常生活には不自由しないかもしれません。しかし、中途失明で点字を早く読めない人ほど、漢字がないために読解に不自由してらっしゃるようです。

漢字を表す点字には「漢点字」と「六点漢字」の二種類が考案されていますが、日本点字委員会が公認しないため、盲学校教育にもあまり取り入れられていません。「点字を表す方法が統一されてから勉強するよ」とおっしゃる方もいらっしゃいますが、それでは日本文化からますます取り残されていくと思います。ボランティアの方々にもご協力いただいて、漢点訳された読み物を増やしていただけると嬉しいです。

★ 漢点字の創案

昭和 44 年 7 月 17 日、元大阪府立盲学校教諭、川上泰一氏によって、漢点字が創案されました。漢点字は 8 点式なので、一般に使われている点字器や点字タイプライターでは書くことができません。そこで、元長野盲教諭の寺島計治氏が 8 点点字を書くことができるタイプライターを開発しました。漢点字を創案した川上氏が理科の先生で、タイプライターを開発した寺島氏が国語の先生だったというのはとても興味深い話です。お二人とも、視覚障害者に対する漢字教育への熱意は相当なものだったのでしょう。川上氏は、農学校と盲学校を聞き違えて盲学校に赴任されたそうです。もし川上氏が盲学校で教鞭を取ってらっしゃらなかったら、漢点字は生まれていなかったのではないのでしょうか。

漢点字を創案するに当たって川上氏は、当用漢字（現在は常用漢字）はもちろんのこと、鍼灸マッサージに必要な医学用語や経穴（つぼ）の漢字は必須と考えました。

★ 漢点字と六点漢字

「漢点字は 8 点で構成されているから読みにくいのでは」と思われるかもしれませんが、漢字を表す本体は 6 点でできていて、上 2 点でそのマスの点字が漢字を表すことを示します。アメリカでも情報処理点字として 8 点点字が使用されていて、大文字やコントロールコードを 1 マスで表しています。

六点漢字は、次の文字が漢字であることを表すための前置符が必要なため、漢字を表すのに 3

マス～4マス必要ですが、漢点字は1マス～3マス（創案当事の当用漢字は2マス以内）で表すことができるように構成されています。

数字やアルファベットが2マスでできていても読めるように、漢点字もどのようにすれば触読し
やすいか、実験を重ねて生まれました。

★ 漢点字の構成

0 7 かな点字(①～⑥)の上に漢点文字符号を置きます。

① ④ ①の上の点を始点(0 の点)

② ⑤ ④の上の点を終点(7の点)と呼びます。

③ ⑥

③ ⑥ 漢
かな点字の「う」 うに漢点文字符号をつけると、「家」 う という漢点字になります。
漢

かな点字の「こ」ここに漢点文字符号をつけると、「子」こ になります。

「字」という漢字は、うこ になります。

かな点字の「き」きに漢点文字符号をつけると、「木」^漢きになります。

かなの「き」きを二つ並べて漢点文字号をつけると、「林」ききになります。

さらにかな点字の「き」きと「3」から数符を取ったもの　うに漢点文字符号をつけると、

「森」^{きゅう}になります。木が三つだから「森」というように漢点字を構成しています。

漢字も段々略字化されてきていますが、漢点字は漢字の略字の集約と言えるかもしれません。

「言」漢え という漢点字と「心」漢 という漢点字を組み合わせ、「恋」えん という漢点字を構成します。

この「恋」という漢字は、昔は「戀」（糸+言+糸）÷心と書いていました。

「いとし、いとしと言う心」が、現在では略字「また心」となっています。

川上先生は、このように構成要素を省略しても漢字としての本来の機能を示している事に漢点字構成の原理を見つけられたそうです。

また糸偏、さんずいなどを部首とする漢字はたくさんあるので、「糸」を糸偏、「系」を第二糸偏、「水」をさんずい、「氷」を第2さんずいなどとして用います。

視覚障害者にとって漢字の字形を知ること大切ですが、どんな部首の組み合わせでその字ができていくかを知ることのほうが重要です。

晴眼者との話の中で、部首の一部が思い浮かべば、漢点字の構成も想像できるからです。

★ 漢点字文を書くときは

1. レイアウトは、ほぼかな点字と同じです。
2. 文節ごとの分かち書きは必要ありません。切りがよい文節で改行もしません。
ただし、数字やアルファベットの扱いはかな点字と同じで、途中で改行はしません。
3. 句点「。」の後は1マス空けにします。
4. 点字における助詞の「わ、え」は、墨字と同じように「は、へ」と書きます。
「う」も長音ではなく墨字と同じように書きます。
5. ひらがなとカタカナを区別するため、カタカナは ！（235 の点）と ニ（23 の点）で囲んで表します。カタカナ記号は、読点や句点、カッコ類等を超えることはありません。但し、一人の人名や一つの名称であることが明らかである場合には、続けます。

(例) ！イギリス ニ・ ！オランダ ニ・ ！ベルギー ニ・ ！ロシア ニを訪問した。

点字の考案者は ！ルイ・ブライユ ニである。 ！ア・ラ・モード ニ風。

6. 新たに定義された点字

ワ行の「ゐ」と「ゑ」は、「イ下がり ゐ」や「エ下がり ゑ」では、カタカナ記号と同じになってしまうので、④⑥の点を前置した 46+イ 斜イ、46+エ 斜エ が新たに定義されました。

「3ヵ月」「3ヶ所」などの小文字のカタカナは、46+カ 斜カ、46+ケ 斜ケ とします。

7. コロンの扱い

日本語文中のコロン（:）には 5+2 ・、の 記号を用いることを原則とし、小見出しを表す場合などでは、他の記号に置き換えたり、レイアウトによって省略したりすることもできます。

なお、時分などを表わす略記法を使用するときは、仮名点字と同じく 25 の点 ー とし、その後に続く数符は省きます。 (例) 1 1時3 0分 数1 1ー3 0

8. ③⑥の点のいずれもない漢点字が行頭にきたときは、かな点字と誤読しやすいので、⑥の点を前置します。これを「下点」と呼びます。

漢 “ ” “ ”
「口」 半れ 「古」 半れろ 「今」 半りあ

例えば、「口」 漢 半れ という漢字は漢点文字符号も含めてかなの「め」と誤読する可能性があります。

9. 漢数字で書かれているものは、算用数字に置き換えずに書きます。

★ 漢数字が並んでいるときの表記

二〇〇六というような場合、一つずつ漢点^{“仮”}符号をつけるのではなく 最初の二と最後の六のみに付け、間は省略する事ができます。\$いろろえ
小数点の 三・一四も、同じように表すことができます。^{“仮”}\$う、ある

★ 字式について

漢字の字形を説明するために、「字式」を用いることがあります。

字式は、\$語 56 の点+リさがり)、\$ㄥ(56 の点+ㄥ)の引用括弧に入れて表します。

縦の関係を や (/)、横の関係を ? (+)で表します。

漢 漢 漢 漢
たとえば「字」は「家／子」 \$語うやこ\$ㄥ、「林」は \$語き?き\$ㄥ「木+木」、
漢 漢 漢
「森」は \$語きやき?き\$ㄥ「木／木+木」というように表します。

★ カッコ類

(1) カッコ類の記号

日本語部分のカッコ類には次の記号を使用します。

丸カッコ 開き (5+2356) ・ = 閉じ (2356+2) =,

第一カギ 開き (5+36) ・ _ 閉じ (36+2) _,

第二カギ 開き (56+3) 外わ 閉じ (6+23) 大二

二重カギ 開き (56+36) 外__ 閉じ (36+23) __二

ルビ カッコ 開き (2356) = 閉じ (2356) =

(2) カッコ類の使い分け

上記の五つのカッコ類は次のように使い分けます。

丸カッコは、追記される説明部分などを挟むのに用い、() に対応します。

第一カギは、会話部分を挟んだり指示する部分を挟んで示すのに用い、「」に対応します。

第二カギは、強調される部分や第一カギとは異なる指示部分を示すのに用います。JIS 記号には特に対応せず、意味上で使い分けます。

二重（ふたえ）カギは、第一カギの中の指示する部分や書名などを挟んで示すのに用い、『』

に対応します。

ルビカッコの中には、原本のフリガナを書き、点訳者挿入符による説明とは区別します。

(3) その他のカッコ

上記 5 個のカッコ類以外に特に使い分ける必要がある場合、その他のカッコとして次の記号を用いることができます。この記号も、JIS 記号には特に対応せず、意味上で使い分けます。

開き (56+2356) 外 = 閉じ (2356+23) = ;

段落挿入符は、本文の要約、前文、宣伝文句、お芝居のト書きなどに使います。

点訳者挿入符の中には、原本にルビがない三マス漢字の読みや、写真や挿絵の説明を書きます。

段落挿入符も点訳者挿入符も 開き == 閉じ == を用いますが、段落挿入符開きと文章の始まり、文章の終わりと段落挿入符閉じの間は 1 マス空けて区別します。

尚、外文字符 は アルファベットの形そのものを表すときと略称、外国語引用符は、英単語や英文を引用するときに用います。

★ 文字繰り返し記号

カタカナ、ひらがな、漢字を繰り返す記号「ヽ ヽ ヴ」にはいずれも (236) (を用います。

また、カタカナとひらがなの繰り返しの濁点「ゞ ざ」には (5+236) 濁 (を用います。

<注意> 句読点や中点と同じく、これらが行頭にくる事のないように配慮しなければなりません。

★ 漢点訳の参考までに

☆ 書き方の形式

1) 2 行にまたがってはならないもの

ひと続きの数字

単位

2 マス以上の漢字

2) 行頭に書いてはならないもの

句点・疑問符・感嘆符など

畳字符(繰り返しの記号)

カッコ類・カタカナ符号などの閉じ記号

3) 行末に書いてはならないもの

カッコ類・カタカナ符号などの開き記号

数符・外文字などのような前置記号

☆ 漢数字の書き方

1) 漠然とした数の書き方

数十	漢漢 \$ 口	数千万	漢“仮” \$ \$ せま
----	------------	-----	------------------

2) 数の意識のないもの

直木三十五	“” “” “” 漢“” ろめき↓うろ↓ら=なおき さんじすー・こ=
九十九折り	“” 漢“” “” ↓おろ↓おてーり=つ・つらおり=
おはこ 十八番	.. “” “” ろ↓りのた=おはこ=

★ パソコンで入力するとき注意すること

一、一、一 (漢数字・ハイフン・長音)

二、ニ (漢数字・カタカナ)

1、1 (数字・アルファベット)

へ、へ (ひらがな・カタカナ)

り、リ (ひらがな・カタカナ)

タ、タ (漢字・カタカナ)

口、ロ (漢字・カタカナ)

などは、スキャナが誤認識することがあります。

また、「っ、ゃ」なども普通の大きさと認識してしまうことがありますので、点字表示や音声ソフトで確認する事が必要です。

日本語変換システムの設定によっては、句読点「、 。」の代わりにコンマ・ピリオド「, .」を使うこともできますが、漢点訳のときは句読点に置き換えて下さい。

カタカナの間に中点「・」が入るとき、カタカナ符を閉じるか継続するかはパソコンは判断して

くれないので、適宜カタカナ符を削除する必要があります。

漢数字が続く場合の間の漢点文字の省略も同様です。

★ 漢点字関連 問い合わせ先

◎ 漢点字編集システム「OP-X」

ムラオ電子

〒8-0982 東大阪市吉田本町 3-5-12-104

<http://www.muraodos.com/>

◎ 漢点字変換ソフト「E I B R K W」

横浜漢点字羽化の会

〒131-0041 東京都墨田区八広 6-33-1

03-3614-9750

<http://www.ukanokai-web.jp/>

◎ 漢点字データ公開利用サイト（元日本漢点字協会所蔵データ）

漢点字協会

<https://kantenji.com/>

◎ 漢点字図書印刷提供（元日本漢点字協会所蔵図書）

点訳出版ボランティアサークル「大樹会」

e-mail : taijukai@n-braille.net

◎ 8点用懐中点字器

日本ライトハウス 点字情報技術センター

〒577-0061 東大阪市森河内西2丁目14番34号

TEL 06-6784-4414

<http://www.lighthouse.or.jp/tecti/>

漢点字の組み立て

《第一基本文字》（57字）

200以上ある漢字の部首の中で、特に重要な部首を選んで1マスで表したものです。

かな点字の発音を漢字の発音と合わせた文字が20字あります。ほかに数は少ないのですが、点の配列と漢字の形が似ている字もあり、残りは特別の根拠はありませんが、全体の漢点字がうまく整理できるように決められています。

非常に良く使われる部首、たとえば「ごんべん」「さんずい」などは下がり字を利用して部首を二つ作り「第2ごんべん」「第2さんずい」などを作っています。

イ	漢 い	糸 (いとへん)	𠂔	漢 ；	系 (第2いとへん・いとがしら)			
ウ	漢 う	家 (うかんむり)	25	漢 ：	宿 (ひとあし)	36	漢 ～	学 (つかんむり)
エ	漢 え	言 (ごんべん)	ヱ	漢 ！	語 (第2ごんべん)			
オ	漢 お	頁 (おうがい)	ヲ	漢 ー	貝 (こがい)			

カ	漢 か	金 (かねへん)	サ	漢 さ	都 (こごとへん・おおごと)
キ	漢 き	木 (きへん)	シ	漢 し	市 (はばへん)
ク	漢 く	草 (くさかんむり)	ス	漢 す	発 (はつがしら)
ケ	漢 け	犬 (けものへん)	セ	漢 せ	食 (しょくへん)
コ	漢 こ	子 (こへん)	ソ	漢 そ	馬 (うまへん)

タ	漢 た	田 (たへん)	ナ	漢 な	人 (にんべん)	ナズレ	漢 ≠	仁 (第2にんべん)
チ	漢 ち	竹 (たけかんむり)	ニ	漢 に	水 (さんずい)	ニズレ	漢 ー	氷 (第2さんずい・にすい)
ツ	漢 つ	土 (つちへん)	ヌ	漢 ぬ	力 (ちから)			
テ	漢 て	手 (てへん)	ネ	漢 ね	示 (しめすへん)			
ト	漢 と	戸 (とかんむり・とだれ)	ノ	漢 の	私 (のぎへん)			
ハ	漢 は	走 (そうにょう)	マ	漢 ま	石 (いしへん)			

ヒ	漢 ひ	進 (しんにゅう)	火	漢 #	火 (ひへん)	ミ	漢 み	耳 (みみへん)
フ	漢 ふ	女 (おんなへん)				ム	漢 む	車 (くるまへん)
ヘ	漢 へ	玉 (たまへん)				メ	漢 め	目 (めへん)
ホ	漢 ほ	方 (ほうへん・かたへん)				モ	漢 も	門 (もんがまえ)

ヤ	漢 や	病 (やまいだれ)						
ユ	漢 ゆ	行 (ぎょうにんべん)	45	漢 ↑	比 (ならびひ)			
ヨ	漢 よ	店 (まだれ)	56	漢 ↓	数 (漢数符)			

ラ	漢 ら	月 (つきへん)	ㄣㄅㄆㄇ	漢 ?	肉 (にくづき)
リ	漢 り	分 (はちがしら)	ㄣㄅㄆㄇ	漢 語	日 (ひへん・ひらび)
ル	漢 る	性 (りっしんべん)	ㄣㄅㄆㄇ	漢 。	心 (こころ・したごころ)
レ	漢 れ	口 (くちへん)	ㄣㄅㄆㄇ	漢 ＝	囿 (くにがまえ)
ロ	漢 ろ	十	ㄣ	漢)	止 (とめる・とめへん)

《第二基本文字と傍側基本文字》

これは第一基本文字を補うもので、偏や旁・足などに当たる部首を統合整理する為に、2マスで構成された文字です。

第二基本文字は、主体となる文字(1マス漢字)を第1マスに置き、第2マスに①、②、③の点のいずれか1点を付加して構成します。これに対して傍側基本文字では、主体を第2マスに置き、第1マスに④、⑤、⑥の点のいずれか1点を付加して構成します。

尚、「えんによろ」「なべぶた」などは重要な部首であるにもかかわらず、漢字では独立文字になっていません。しかし、漢点字では第1基本文字の時と同様独立文字として扱います。

1) 第二基本文字の例

動物に関する部首（「ソ」は、「馬偏」「牛偏」「羊偏」「豕偏」として使われます）

ソ+1	“” そあ	牛（うしへん）	ソ+2	“” そ,	羊（ひつじへん）	ソ+3	“” そ'	豚（いのこへん）
-----	----------	---------	-----	----------	----------	-----	----------	----------

体の一部になる部首（「ミ」は、「耳偏」「身偏」「足偏」として使われます）

ミ	漢 み	耳（みみへん）	ミ+1	“” みあ	身（みへん）	ミ+2	“” み,	足（あしへん）
---	--------	---------	-----	----------	--------	-----	----------	---------

漢字の形が「方」に似ている（「ホ」は、「方偏」「夕偏」「がっぺん」として使われます）

ホ	漢 ほ	方（はばへん）	ホ+1	“” ほあ	夕（ゆうへん）	ホ+2	“” ほ,	死（がっぺん）
---	--------	---------	-----	----------	---------	-----	----------	---------

漢字の形が「玉」に似ている（「ヘ」は、「玉偏」「王偏」「主偏」として使われます）

ヘ+1	“” へあ	王（おうへん）	ヘ+2	“” へ,	将（しょうへん）	ヘ+3	“” へ'	主（あるじへん）
-----	----------	---------	-----	----------	----------	-----	----------	----------

「によろ」になる部首（「ハ」は、「そによろ」「しによろ」「えんによろ」のほかに、

「ヒ」と同じく「しんによろ」としても使われます）

ハ+1	“” はあ	延（えんによろ）	ハ+2	“” は,	支（しによろ）	ハ+3	“” は'	遊（しんによろ）
-----	----------	----------	-----	----------	---------	-----	----------	----------

漢字の頭になる部首（「㊦㊧の点」は、「つめかんむり」「のづめかんむり」「なべぶた」として使われます）

36+1	“” ～あ	愛（のづめかんむり）	36+2	“” ～,	光（ひかりへん）	36+3	“” ～'	文（なべぶた）
------	----------	------------	------	----------	----------	------	----------	---------

発音が似ている（「ヤ」は、「病だれ」「山偏」などとして、「カ」は「金偏」「川偏」として使われます）

ヤ	漢 や	病（やまいだれ）	ヤ+1	“” やあ	山（やまへん）	ヤ+2	“” や,	矢（やへん）
カ	漢 か	金（かねへん）	カ+1	“” かあ	川（かわへん）			

全体の漢点字がうまく配列できるように定めた部首

(「シ」は「巾偏」「色偏」として使われ、色に関する漢字も作られます)

シ+1	“” しあ	色	シ+3	“” し,	巾	シ+カ	“” しか	赤	シ+ク	“” しく	黒
-----	----------	---	-----	----------	---	-----	----------	---	-----	----------	---

(「マ」は、「石偏」「立偏」として使われます)

マ	漢 ま	石 (いしへん)	マ+1	“” まあ	立 (立へん)
---	--------	----------	-----	----------	---------

2) 傍側基本文字の例

「つくり」として重要な部首

(漢点字の全体の構成を決める上でも大切なので、すべて独立文字となっています)

4+ヌ	“” ぬ	刀 (りっとう)	4+ノ	“” の	段 (るまた)	4+ニズレ	“” '	改 (ぼくによ)
-----	---------	----------	-----	---------	---------	-------	---------	----------

かな点字の発音を利用した部首

4+ト	“” と	長	4+ヒ	“” ひ	皮	4+ツ	“” そ	曾	4+コ	“” こ	共
5+コ	“” ・こ	呉	6+コ	“” パこ	公	5+ユ	“” ・ゆ	兪 (ゆ)	6+エ	“” パえ	袁 (えん)

《対象基本文字》

漢字の中には「一、二 三」や「上、中、下」のように、お互いに関係し合って成り立っている文字があります。これらを「対象基本文字」と言い、他の部首と組み合わせさせて別の漢字ができます。

対象基本文字は、第1マスに「前置記号」を付けて表しています。

1) 漢数字

前置記号としては第1マスに「⑤⑥の点」＝「漢数符」を付け、第2マスは算用数字と同様にします。なお漢数符は、それだけで「数」という独立した漢字になります。

56+1	“” \$あ	一	56+0	“” \$ろ	〇 (零)	0	“” ろ	十	56+メ	“” \$め	百
56+セ	“” \$せ	千	56+マ	“” \$ま	万	56+ナ	“” \$な	億	56+25	“” \$一	兆

2) 比較文字

「上と下」「父と母」のように対象関係にある漢字や物の量を計る単位になる漢字です。

比較文字は前置符号として「④⑤の点」＝「比較符号」を付け、第二マスでお互いの関係を示します。比較符号は漢数符と同様「比」という独立した漢字になります。

45+ㄅ	“” ↑ う	上	45+25	“” ↑ :	中	45+36	“” ↑ ~	下			
45+23	“” ↑ ;	左	45+56	“” ↑ \$	右	45+ㄘ	“” ↑ ち	父	45+ハ	“” ↑ は	母
45+ㄒ	“” ↑ ひ	東	45+ニ	“” ↑ に	西	45+ㄣ	“” ↑ み	南	45+キ	“” ↑ き	北

単位

45+シ ↑し	“”	寸	45+ㄊ ↑た	“”	尺	45+リ ↑り	“”	里	45+ㄗ ↑を	“”	斤	45+ㄗ ↑く	“”	升
------------	----	---	------------	----	---	------------	----	---	------------	----	---	------------	----	---

《合成文字》

1) 第一合成文字

第一基本文字を二字組み合わせた字。

1. 単純合成

第一基本文字がそのまゝの形で単純に二つ組み合わせられている。

ㄅ+コ うこ	“”	字	ㄅ+ネ うね	“”	宗	ㄅ+フ うふ	“”	安	ㄅ+ハ うへ	“”	宝
キ+キ きき	“”	林	キ+メ きめ	“”	相	サ+ホ さほ	“”	防	サ+ム さむ	“”	陣
ㄊ+ヌ たぬ	“”	男	モ+レ もれ	“”	問	ヨ+ㄌㄎㄚㄌ よ。	“”	応	ㄌㄎㄚㄌ+ハ ＝へ	“”	国

2. 二字選択

基本文字が3文字以上組み合わせられて出来ている漢字の場合、その中から二字を選び出して作る。

これを「二字選択」と言い、漢点字構成の原理になっています。二字を選び出すために次のような原則に従います。

漢字の意味において重要な「へん」や「つくり」など分類上大切な基本文字は選択する。

エ+ㄙㄨㄚ え数	“”	談	ㄋㄚㄌ なれ	“”	保	キ+ㄌㄎㄚㄌ き。	“”	想	キ+ナ きな	“”	来
-------------	----	---	-----------	----	---	--------------	----	---	-----------	----	---

一連文字 …… 漢字の中にはお互いに意味や読みが関係し合っている一連の字があるので、漢点字でも連携が保たれるよう基本文字を選択する。

たとえば、何でも古くなると硬くなったり苦い味がしたり、また草や木は枯れてしまいます。

このような意味で「古」という漢字が中心になって一連の漢字が生まれます。

レ+ロ	“ ” れろ	古	レ+カ+リ+ロ	“ ” =ろ	固	ク+ロ	“ ” くろ	苦	キ+ロ	“ ” きろ	枯
-----	-----------	---	---------	-----------	---	-----	-----------	---	-----	-----------	---

2) 第二合成文字

第二基本文字は合成されると第二マスの点が無くなるので、第一基本文字と同じ形になります。

「ソ」＝動物偏を使った字

ソ+タ	“ ” そた	駅	ソ+シ	“ ” そし	特	ソ+ケ	“ ” そけ	美
-----	-----------	---	-----	-----------	---	-----	-----------	---

「㊦」を使った字

36+ヌ	“ ” ～ぬ	労	36+チ	“ ” ～ち	交
------	-----------	---	------	-----------	---

「交」を「つくり」にした字

キ+チ	“ ” きち	校
-----	-----------	---

「へ」を使った字

キ+ハ	“ ” きへ	柱	ナ+ハ	“ ” なへ	住	ヘ+リ	“ ” へり	理
-----	-----------	---	-----	-----------	---	-----	-----------	---

「ヤ」を使った字

ヤ+ウ	“ ” やう	峠	ヤ+シ	“ ” やし	痔
-----	-----------	---	-----	-----------	---

「マ」を使った字

マ+フ	“ ” まー	新	マ+メ	“ ” まめ	親
-----	-----------	---	-----	-----------	---

「ホ」を使った字

ホ+ホ	“ ” ほほ	多	ホ+ソ	“ ” ほそ	少
-----	-----------	---	-----	-----------	---

「少 小」を組み込んだ字

リ+メ	“” そめ	省	ニ+ソ	“” にそ	消
-----	----------	---	-----	----------	---

3) 対象合成文字

第一基本文字と対象基本文字とを組み合わせで作られた文字です。合成文字を作るときは「二字選択」の原理に従って、数符や比較符号は取り除かれます。

「寸」を「つくり」や「足」にした字

キ+シ	“” きし	村	ウ+シ	“” うし	守	エ+シ	“” えし	討	ツ+シ	“” つし	寺
-----	----------	---	-----	----------	---	-----	----------	---	-----	----------	---

「寺」を「つくり」にした字

テ+シ	“” てし	持	リカ`リ+シ	“” 語し	時	ユ+シ	“” ゆし	待	エカ`リ+シ	“” ！し	詩
-----	----------	---	--------	----------	---	-----	----------	---	--------	----------	---

「千」を組み込んだ字

レ+セ	“” れせ	舌	エ+セ	“” えせ	話	ニ+セ	“” にせ	活
-----	----------	---	-----	----------	---	-----	----------	---

「兆」は、人が座っている形から変形した漢字で「にんによう」として「つくり」や「足」になります。漢点字では主に第 2 マスに入ります。この場合も二字選択の原理に従って②⑤だけで「にんによう」を表します

ヒ+25	“” ひ：	逃	レ+25	“” れ：	兄	メ+25	“” め：	見
------	----------	---	------	----------	---	------	----------	---

「斤」は斧の形から変形した漢字で「おのづくり」となります。

漢点字では第二マスに入り「③⑤の点」だけでおのづくりを表します。

チ+7	“” ちー	折	ヒ+7	“” ひー	近
-----	----------	---	-----	----------	---

次の 3 字はいずれも比較符号が無くなっています。

イ+ヒ	“” いひ	練	ニ+フ	“” にふ	要	ノ+キ	“” のき	乗
-----	----------	---	-----	----------	---	-----	----------	---

4) 傍側合成文字

傍側基本文字を第二マスに組み込んだ文字で、かな点字の発音が合成文字の中に生かされてい

ます。

「袁」を使った字

ヒ+エ	“ ” ひえ	遠	レ+カ+リ+エ	“ ” =え	菌	ケ+エ	“ ” けえ	猿
-----	-----------	---	---------	-----------	---	-----	-----------	---

「兪」を使った字

ル+ユ	“ ” るゆ	愉	エ+ユ	“ ” えゆ	諭
-----	-----------	---	-----	-----------	---

「皮」を使った字

ヤ+ヒ	“ ” やひ	疲	ユ+ヒ	“ ” ゆひ	彼	ニ+ヒ	“ ” にひ	波
-----	-----------	---	-----	-----------	---	-----	-----------	---

「曾」を使った字

ナ+ズ+レ+ソ	“ ” ≠そ	僧	ツ+ソ	“ ” つそ	増
---------	-----------	---	-----	-----------	---

「共」を使った字

ナ+コ	“ ” なこ	供	タ+コ	“ ” たこ	異
-----	-----------	---	-----	-----------	---

「呉」を使った字

フ+コ	“ ” ふこ	娛	エ+コ	“ ” えこ	誤
-----	-----------	---	-----	-----------	---

「刀」(りっとう)を使った字

ノ+ヌ	“ ” のぬ	利	ホ+ヌ	“ ” ほぬ	列	ナ+ヌ	“ ” なぬ	例
-----	-----------	---	-----	-----------	---	-----	-----------	---

「段」(るまた)を使った字

テ+ノ	“ ” ての	投	ユ+ノ	“ ” ゆの	役	ニ+ノ	“ ” にの	没
-----	-----------	---	-----	-----------	---	-----	-----------	---

「改」(ぼくによう)を使った字

キ+ニ+ズ+レ	“ ” き	枚	レ+ニ+ズ+レ	“ ” れ	故
---------	----------	---	---------	----------	---

《近似文字》

近似文字は、墨字の漢字で形がよく似通ったものを整理し2マスで表した字です。

第 1 マスに主体を置いた字では、第 2 マスに④、⑤、⑥の点のいずれか 1 点を付加し、逆に第 2 マスに主体を置いた字では、第 1 マスに①、②、③の点のいずれか 1 点を付加して表します。第二基本文字や傍側基本文字の付加点は、主体に近い位置に付いているのに、近似文字の付加点は主体から遠い位置についているところにその違いがあります。

1) 主体を第 1 マスに置いた近似文字の例

キ+4	“” き’	未	キ+5	“” き・	未	キ+6	“” きパ	本
タ+4	“” た’	由	タ+5	“” た・	曲	ス+4	“” す’	久

2) 主体を第 2 マスに置いた近似文字の例

1+ケ	“” あけ	天	2+ケ	“” ， け	太	3+ケ	“” ， け	夫
-----	----------	---	-----	-----------	---	-----	-----------	---

3) 「日」「十」「心」にそれぞれ 1 本の線を付けると次の漢字になります。漢点字では④または⑤の点を付けます。

リカゝリ+4	“” 語’	旧	ロ+1	“” ろあ	才	ルカゝリ+5	“” ・ ・	必
--------	----------	---	-----	----------	---	--------	-----------	---

4) 「川」に三つの点を付けると次の漢字になります。

カ+4	“” か’	州
-----	----------	---

5) 億の「つくり」だけを取り出した漢字です。

1+ナ	“” あな	意
-----	----------	---

6) 近似文字と他の基本文字との合成文字です。

レ+4	“” れ’	味	ナ+6	“” なパ	体
-----	----------	---	-----	----------	---

《発音文字》

漢点字には、発音をそのまま文字に置き換えた字も作られています。

エ+ソ	“” えん	円	ソ+25	“” そ：	争	セ+イ	“” せい	生	タ+イ	“” たい	対
-----	----------	---	------	----------	---	-----	----------	---	-----	----------	---

発音文字「ミ+ン」とその合成文字です。

ミ+ン	“” みん	民	メ+ン	“” めん	眠
-----	----------	---	-----	----------	---

発音文字「ハ+ン」とその合成文字です。

ハ+ン	“” はん	反	キ+ン	“” きん	板	セ+ン	“” せん	飯	ヒ+ン	“” ひん	返
-----	----------	---	-----	----------	---	-----	----------	---	-----	----------	---

訓を利用した発音文字です。

コ+ト	“” こと	事	オ+ニ	“” おに	鬼
-----	----------	---	-----	----------	---

《逆転文字》

2 字選択を原則にして作られている漢点字は部首を統合整理しているため、合成漢点字が「衝突」する場合があります。逆転文字とは、どのように工夫しても避けられない「衝突」が出た場合、「へん」と「つくり」を逆転させて作った文字のことです。

コ+フ	“” こふ	好	ソ+ニ	“” そに	洋	ロ+キ	“” ろき	材
メ+ソ	“” めそ	着	ト+ノ	“” との	料			

《特殊文字》

今までに述べた方法を使っても「衝突」が避けられない場合に、特別な方法を使って作られた文字が特殊文字です。

部首を1 字だけ選択した字

ウ+キ	“” うき	空	（「うかんむり」だけを選択し「キ」は漢字に関係ない）					
ユ+25	“” ゆ：	弟	（「弓」だけを選択し「兄」と形をあわせた）					

漢字の意味を点の位置で示した字

25+ニ	“” ：に	垂	（「25」と「ニ」が垂直になっている）					
ニズレ+ウ	“” 丨う	浮	（第2 さんずい+「上」）					

ニズレ+36	“” ~	沈 (第2さんずい+「下」)
--------	-----------	----------------

「日」を時間を表す前置符号にした字

リカ`リ+ソ	“” 語そ	秒	リカ`リ+カ	“” 語か	年
--------	----------	---	--------	----------	---

「色」からとった「シ」を色を表す漢字の前置符号にした字

シ+1	“” しあ	色	シ+カ	“” しか	赤	シ+ク	“” しく	黒			
シ+コ	“” しこ	黄	シ+セ	“” しせ	青	シ+ミ	“” しみ	緑	シ+ム	“” しむ	紫

特殊文字と他の基本文字を合成して作った字

メ+ニ	“” めに	睡	リカ`リ+セ	“” 語せ	晴	ニズレ+セ	“” せ	清
-----	----------	---	--------	----------	---	-------	-----------	---

《3マス漢点字》

3マスで構成される漢点字には、次のような規則性があります。

- ★ 1マス目が「へん」、二マス目と3マス目が常用漢字

曖昧 (あいまい)	“—” “—” 語~あ れ、	鰯 (いわし)・鯉 (かつお)	“—” “—” せゆゆ・ せつす
瑠璃 (るり)	“—” “—” へらた へ、い	汲 (く) む	“—” に、； む

- ★ 旧字は常用漢字の1マス目を重ねる

邊 (へん)	“—” ひひく	澤 (さわ)	“—” たたに
--------	------------	--------	------------

- ★ 間に25の点または36の点を入れる (引っぱりと呼びます)

浚 (しゅん)	“—” に~む	潰 (かい)	“—” に：ー	椀 (わん)	“—” き：う
---------	------------	--------	------------	--------	------------